プラス2）後
見で、台湾情
「最近我々が
のは、中国軍
挑発的な行為
中国を批判し
台湾を巡る）
しようとして
摘し、警戒感
又記事1面▽
昨年8月に米
湾を訪問し
上の中台境界
た中間線を越
飛行や艦艇
化させてい
ン氏は、こう
行動を批判し
き続き情勢を

日米で対話 役割明確に

日米2プラス2の意義と課題について、東アジアの安保に詳しい米ダートマス大のジェニファー・リンド准教授に聞いた。

◇

今回の2プラス2では、中国の東シナ海での軍事活動の活発化や日本の人工衛星に対する攻撃といった両国の脅威に対する抑止力強化について意見が交わされた。日米同盟の脆弱性を共有し、必要な政策や能力が何か議論できたのは意義深い。

米ダートマス大准教授
ジェニファー・リンド氏

日米同盟は、かつてないほど強固になった。それは中国の軍事的台頭、北朝鮮の核・ミサイル能力の変化など、日米が全く同じ課題に直面しているからだ。日本の新たな「反撃能力」の保有を巡っても、従来のミサイル防衛だけでは守れないという認識は米国も共通して持っている。

日本は防衛費の増額を決めたが、予算を増やせば自動的に能力が強化されるわけではない。日米が今後、さらに対話を密にし、具体的な防衛力の整備につなげていくことが重要だ。例えば日本国内の基地が中国や北朝鮮の大量のミサイルで脅かされることも考えられる。そうなれば、基地の能力維持のため航空機を守る大量のシェルターが必要だ。日米合同の訓練もさらに求められるだろう。

日本に期待できることを事前に明確にすることも大事だ。台湾有事が起きた場合、米国は何を求め、日本は何をする気があるのか。日本は台湾の安全保障にどう関わるのか。議論を深め、不測の事態にも両国が一致した認識で臨めるようにしなければならない。（ワシントン　田島大志）

く」と強調した。一方で「意
対話を重視する姿勢も示し
議委員会（2プラス2）で
た。

国ナミット 開幕

サミット」が12日、オンラ
インで開幕した。
上国や新興国を指し、新型
ココナウイルスやコシアの
首脳会合こまベトナムやセ
冒頭が公開された12日の

ジル夫人 皮

【ワシントン＝
国のジル・バイデン
は11日、ワシントン
で、皮膚がん検査で
つかった病変を取り
受けた。大統領主治
よると、皮膚がんの
底細胞がん」と確認
てのがん組織の切
た」という。

イラン スパイ

【テヘラン＝西田
ンメディアなどは11
情報機関に機密情報
として罪に問われた
防軍需省高官で、革
国籍を持つアリレ
氏に死刑判決が言い
報じた。近く執行さ
があるという。アク
革派のモハンマド
時代の高官。イラン
明によると、テヘラ
使館でビザを取得す
青報幾関員と接触

める声が上がって